

トライアルのきっかけ：感覚統合理論に基づきデザインされたボールクッションが幼児、児童、成人に与える、以下の効果を検証するために行われました。

- 1) 姿勢の改善
- 2) 多動・衝動性の緩和
- 3) 注意力不足の解消、注意力の向上

結果：10日間以上、ボールクッションを使用した被験者10名のうち9名が各々の症状に何らかの改善を確認することができました（グループB）。OTセッションにて短時間だけ、ボールクッションを使用した被験者では約40%が症状の改善を確認することができました（グループA、8名中3名）。

方法：同製品を療育院、個人へ貸出し、被験者の様子をOTや保護者にアンケート形式で報告をしてもらいました。製品の利用期間と被験者の人数は以下に分類されます。

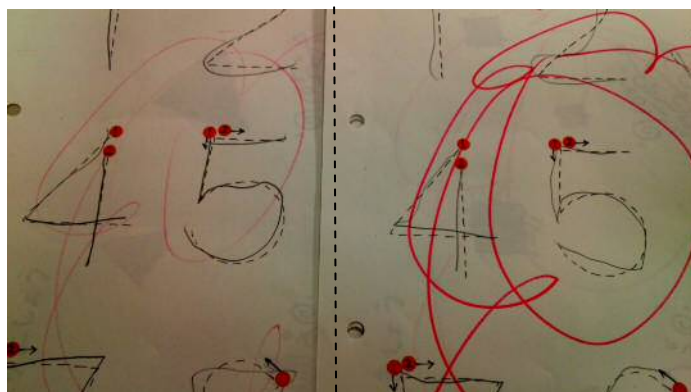
製品の利用期間別改善の有無と被験者数	被験者数 合計	改善が		
		あった	なかった	未回答
グループA（OTセッション、療育院で利用） クッションの利用が30～50分以内2回未満の場合	8	3	4	1
グループB（各家庭にて利用） クッションの利用が10日間以上（メーカー推奨期間：14日間）	10	9	1	0
合計	18	12	5	1

グループAは、数か所の療育院にてOTセッション時にボールクッションを利用しました（全て50分未満の利用）。それに対して、グループBは製品を各家庭に持ち帰り、被験者が食事や宿題をする際、継続的に利用しました。

改善項目については両グループ（計12名）共に、姿勢の改善が最も多く報告されました。

具体的な座位保持時間に関しては1回に平均7～8分しか机に向かえなかった被験者が15分程度、宿題を続けることができたり、別の被験者は5分から20分、10分から30分程、座位が保てるようになったという嬉しい報告もありました。また姿勢が正されたことで、筆圧にも変化が生まれ、安定した文字を書けるようになり（写真①）、自信をつけた被験者についても報告がありました。

製品利用中に改善した項目（複数回答可）				
改善項目	集中力	落ち着き	座位保持時間	座位姿勢
グループA	2	2	1	3
グループB	4	6	4	8



写真①

左：OTセッション中、製品使用中

右：OTセッション中、製品未使用

担当OT談：製品使用中は明らかに姿勢が良くなり、文字がしっかり書けるようになった（優しすぎた筆圧が適切になった）。被験者は覚醒が低めのアスペルガー症候群の5歳男児。